



## 熊本大学国際化推進センターニュース

### The News Letter of the Center for Globalization, Kumamoto University

#### 国立六大学国際連携機構 ASEAN大学連合とのパートナーシップ協定を締結



左から協定書に署名する Nantana AUN 事務局長、Rajata マヒドン大学長、荒木機構長(岡山大学)

熊本大学を含む国立六大学国際連携機構は、去る4月22日、東南アジアのトップ大学が参加するASEAN大学連合(AUN)とのパートナーシップ協定を締結しました。タイのマヒドン大学で行われた調印式には、本学から今年4月に副学長(国際交流担当)に就任した伊原博隆教授が出席しました。調印式後には、インドネシア大学やマレーシア工科大学などAUNに加盟する13大学との副学長会議も開催されました。会議では協定の柱のひとつであるグローバル人材育成を推進するために、大学間交流の枠組みや学生交流プログラムの確立に向け、具体的な提案と議論が行われました。

国立六大学国際連携機構は、千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学で構成され、平成25年



副学長会議参加者(後列右から4人目が伊原副学長)

4月に発足しました。これほど広域にまたがって複数大学が連携協定を結ぶのは国立大学では初めてとなります。六大学の特色を生かした連携により、世界的水準の独創的な研究拠点の創出、グローバル社会でリーダーとなる人材の育成、地域社会への貢献、国際的活動の推進を図っています。今後、AUNとの協定を通じ、国立六大学のさらなる国際化を目指し、特に生命科学分野での大学間交流や単位互換など、連携を深めていきます。

#### 駐日ルワンダ共和国大使が本学を訪問

7月8日、Charles Murigande駐日ルワンダ共和国大使が本学を訪問しました。今回の訪問は、同大使が、7月5日から7月7日まで開催された熊本県ユニセフ協会主催の「アフリカの子どもの日 in Kumamoto ~もっと知ろうアフリカ!2013」での講演のため来熊したことを機に、熊本県ユニセフ協会会長を務める谷口学長と交流を深めたいとの要望があったため実現したものです。

懇談では、谷口学長が、熊本大学としてルワンダ人留学生をより多く受け入れていきたいとの考えを述べ、今後もルワンダの大学と良好な関係を発展させることで意見が一致しました。大使は、本学へ在籍しているルワンダからの留学生に対し、励ましのメッセージを送られるとともに、今後の交流についての期待を述べられました。



谷口学長と Murigande 大使(左から3人目)

#### テキサス大学サンアントニオ校(UTSA)が来学

5月23日、本学の協定校であるアメリカ合衆国・テキサス大学サンアントニオ校(UTSA)からJulius Gribou副学長以下学生を含む17名の訪問団が谷口学長を表敬訪問しました。

本学はUTSAと平成22年に大学間交流協定を結び、工学系の分野を始めとした様々な分野での交流が行われています。

今回の訪問は、“Walking the Japanese Culture -日本の文化を歩こう!!”をテーマに日本語を学ぶUTSAの学生が日本の文化等について理解を深め、本学の学生と交流するために訪問したものです。

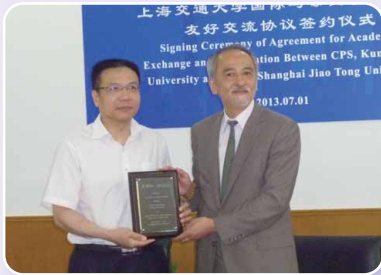
UTSAの一行は本学の学生の案内により五高記念館等を見学し、その後の谷口学長らとの懇談では、UTSAの学生が日本を訪れて抱いた感想を日本語で述べるなど、表敬は和やかに終了しました。午後には、UTSA学生と熊本大学の学生によるパーティーも行われ、大変有意義な訪問となりました。



谷口学長と UTSA 訪問団



## 上海交通大学国際及び公共業務学院(中国)と 部局間交流協定を締結



徐飛副学長(左)との記念品交換

7月1日、中国・上海市の上海交通大学にて、政策創造研究教育センター(政創研)と上海交通大学国際及び公共業務学院との部局間交流協定書の調印式が行われました。

上海交通大学は、1896年の開学以来、江

沢民前中国国家主席をはじめ、政財界や学术界等、各界に傑出した人材を多数輩出してきた大学として知られています。同大学の国際及び公共業務学院では、比較政治系、公共行政系、公共経済及び社会政策系等の学科を有し、これまでも政創研との学术交流が行われてきました。

本学からは、原田信志理事・副学長(研究・社会連携担当)、上野眞也政創研教授ほか関係者が同大学を訪問し、調印式に先立って徐飛副学長らと会談を行いました。調印式後には、公共政策に関する交流会が実施され、上野教授、河村洋子政創研准教授が政創研の概要説明及び活動紹介を行いました。

今回の訪問では、本学が平成24年度文部科学省博士課程教育リーディングプログラムに採択された「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO(HIGOプログラム)」による学生・教員の同大学への訪問など、両大学の今後の具体的な交流について意見交換が行われました。今回の協定締結を機に、今後さらに大学間の友好関係が深まることが期待されます。



調印式後の記念撮影

## 平成24年度留学生実地見学旅行を実施

2月19日から20日にかけて、福岡・佐賀方面への熊本大学留学生実地見学旅行を実施しました。この見学旅行は、日本の歴史・文化・風土及び日本が持つテクノロジーをはじめとした現在の科学技術などを実際に体験し日本への理解を深める機会を提供するとともに、留学生同士や日本人学生との交流の場となることを目的に、本学で学ぶ留学生とチューターを対象に毎年企画されています。今年度は、17か国の留学生98名とチューター5名が参加しました。

初日は九州国立博物館や太宰府天満宮等を見学、2日目には佐賀市歴史民俗館、吉野ヶ里歴史公園、大塚製薬工場を見学しました。博物館等の見学を通して、旧石器時代から弥生時代、江戸時代と日本文化の形成の歴史とアジア諸国との文化交流について学ぶことができました。また、色とりどりに咲き始めた梅の花と伝統的建造物の織りなす優美な景色に感銘を受けていました。更に、日本企業によるリサイクルや品質管理の取り組みの見学は、本学留学生にとって日本企業について理解する良い機会となりました。

今回は佐賀県嬉野温泉の旅館に宿泊し、留学生は日本の宿泊スタイルや代表的な日本文化でもある温泉を体験することができました。特に温泉は初めて体験した学生も多く、全身が温まりリラックスする気持ちよさに多くの学生が感動していました。

## 熊本留学生交流推進会議主催 ウェルカムパーティー(春)を開催

5月19日、熊本大学工学部百周年記念館で熊本留学生交流推進会議主催のウェルカムパーティー(春)が開催されました。熊本留学生交流推進会議では、熊本県内の大学・高等専門学校に新規に来日、入学した留学生や在学中の留学生、日本人学生との交流を持つ機会を提供することを目的として、毎年、春と秋の2回、実施しています。

当日は熊本留学生交流推進会議運営委員会委員である谷口学長による乾杯の音頭を皮切りに、参加した留学生、日本人学生が交流を楽しみました。また、各大学サークルのパフォーマンスとして、熊本大学体育会応援団チアリーダー、熊本県立大学Do Dacによるダンスが披露され、約270名の参加者を巻き込んだパフォーマンスに会場は大いに賑わいました。



熊本大学体育会応援団チアリーダーによるパフォーマンス

## 熊本留学生交流推進会議総会を開催

6月11日に熊本留学生交流推進会議総会が熊本大学において開催されました。本会議は、熊本県内の高等教育機関、国・地方公共団体、経済団体、国際交流団体によって構成され、留学生の円滑な受入体制を推進し、あわせて地域との交流を通じて相互の理解を深めることを目的として、年間を通じて活動を行っています。

議事に先立ち、文部科学省高等教育局学生・留学生課留学交流支援係長 福島健太郎氏から外国人留学生の受入及び日本人の海外留学に係る現状及び所管事項・施策等の説明が行われました。引き続き、本総会では、平成24年度事業の報告及び平成25年度の実業等について協議を行いました。今後の留学生受入の促進やグローバルな社会で活躍できる人材育成について活発な意見交換が行われました。



文部科学省 福島係長による挨拶

熊本大学に帰着後、参加学生は今回の旅行を通して学んだことや感じたことを報告書としてまとめ、無事に旅行を終了しました。

二日間の旅行は、本学留学生にとって日本の歴史・文化・科学技術等についての理解を深めるとともに、日頃顔を合わせる機会が少ない他部局留学生との親交を持つ良い機会となり、次回の開催を心待ちにしているという留学生の声も聞かれました。



福岡・太宰府天満宮での記念撮影



## 平成25年度前期熊本大学国際化推進センター日本語研修コース及び熊本大学短期留学コース開講式を開催

4月5日、くすの木会館レセプションルームにて、平成25年度前期熊本大学国際化推進センター日本語研修コース及び熊本大学短期留学コースの開講式が開催されました。

谷口学長は各コースの新入留学生に対し、「日本人学生を含め多くの友人を作り、体調に気をつけて熊本での生活を楽しんでください」と暖かい祝辞を述べられました。

日本語研修コースには、インド、グアテマラ、エジプトから3名の留学生が入学しました。半年間、国際化推進センターで日本語の研修を受け、各研究科・教育部への進学準備を行います。

短期留学コースには、中国から2名、台湾から1名、韓国から11名の計14名が本コースに入学しました。本コースに所属する留学生は各学部部に所属し、国際化推進センター科目、専門科目及び教養教育科目等を各自の日本語能力や興味に合わせて学習します。



開講式の様子

## 平成25年度TOEFL講座開講

5月28日、国際化推進センター主催平成25年度TOEFL講座が開講されました。本講座は、交流協定校への交換留学等、本学学生の海外派遣を推進し、留学準備のための英語力向上を目的とした課外講座です。今年度は、毎週火曜と木曜に全14回行いました。TOEFLスコアが必要な英語圏への留学を希望している学生が31名参加しました。ネイティブ講師による授業と、毎回出される課題に、受講者は真剣に取り組んでいました。

受講者は、本講座開始前と終了後、全員TOEFL模擬テストを受験し、今年度末までにTOEFL本試験を受験してスコアを提出することになっています。本試験のスコアをもとに講座を終えた後の各自の英語能力向上について確認します。



鳥居副センター長による開講挨拶

## 平成25年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会に参加

6月19日、静岡市で平成25年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会が開催されました。国際化推進センターから、今年4月に副センター長に就任した鳥居修一教授(自然科学研究科)ら3名が参加しました。

同事業は平成10年に訪日した金大中大統領(当時)と小渕恵三首相(当時)との間で行われた日韓首脳会談に基づいて発表された日韓宣言「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」で日韓両国の青少年交流の拡大がうたわれたことをうけて始められた留学生事業です。大韓民国の高校を卒業した学生を日本の国立大学の理工系学部(4年制)へ招致し、最先端技術・知識の習得および日韓の相互理解の増進を図ることを目的としています。

本学は、平成12年度(第1期)からこの事業へ参加しており、国際化推進センターが予備教育を、工学部と理学部が専門教育を実施しており、現在4名の韓国人学生が在籍しています。

韓国人学生らは、卒業後各方面で活躍する事とともに、日本と韓国交流の架け橋となることが期待されます。

## 熊本大学を訪問して -ITSオフィス便り②-

Mia Hernawati (インドネシアITSオフィス・オフィサー)

6月13日から18日にかけて、私はリエゾンオフィススタッフに対する研修の一環として熊本大学に招かれ、増加している留学生のためのプログラムについて話し合い、熊本大学とインドネシア スラバヤ工科大学(ITS)についての情報を交換しました。施設見学、キャンパスツアーを通して、私は多くのことを学び、日本の文化や生活習慣、教育などについて理解を深めました。

熊本大学に留学中、または卒業したインドネシアの学生や研究生は約160名になります。今回の訪問で、インドネシアの学生らに会う機会がありました。彼らは熊本での生活について話してくれ、熊本大学で学んでいることへの満足感を語ってくれました。

時間が経つのは早く、熊本大学リエゾンオフィスが設立されて4年になります。ITSオフィスはITSをはじめとするインドネシアの主要な大学との研究協力や学生交流の強化、またインドネシアにいる同窓生のネットワーク支援の役割があります。私はITSオフィスで働き、インドネシアの学生や教員らが、日本、特に熊本大学で教育を受けたいという熱意を知り、ITSオフィスの重要性を強く感じます。今後、ITSオフィスが熊本大学への架け橋だけでなく、インドネシアに向けて日本を紹介する「大きく開かれたドア」になることを期待しています。今回の熊本大学訪問を通して、これが実現可能であることを実感しました。今回の訪問は、まだ日本に行ったことがないけれども行きたいと思っているインドネシアの人々に紹介するとき、とても役立つ経験となりました。



伊原副学長とのディスカッション

## 海外の優秀な学生の獲得に向けて海外7大学訪問

海外の優秀な学生をリクルートすることを主たる目的に、国際化推進センターの陳強教授が1月から3月にかけて台湾国立大学(台湾)、華中科技大学(中国)、ソウル国立大学(韓国)、ハワイ大学(アメリカ)を含む7大学を訪問しました。各大学で、HIGOプログラム等の最新の教育プログラムや研究の紹介を行い、大学間交流について話し合い、学生向け説明会を実施しました。

訪問した大学の一つであるコンケン大学(タイ)では、平成16年に大学間学術交流協定を結び、医学系の分野を始めとした様々な分野での交流が行われています。今回の訪問では、大学院生に対しHIGOプログラムの募集要領の説明を行うとともに、国際関係・提携戦略担当のKanittha Volrathongchai学長補佐と大学間での共同研究や学生交流について意見交換し、大変有意義な訪問となりました。



陳教授とVolrathongchai学長補佐



熊本大学に在学中のインドネシア留学生との会合

## 大学間・部局間交流協定(平成25年1月～6月) 締結分

大学間/部局間	大学名	国名	学術/学生	
大学間	ガジャマダ大学 Gadjah Mada University	インドネシア	学術/学生	
	ファユム大学 Fayoum University	エジプト・アラブ共和国	学術/学生	
部局間	工学部 大学院自然科学研究科	ウォータールー大学工学部 University of Waterloo, Faculty of Engineering	カナダ	学術
	工学部 大学院自然科学研究科	マリボル大学機械工学部 University of Maribor, Faculty of Mechanical Engineering	スロベニア共和国	学術/学生
	生命資源研究・支援センター	韓国生命工学研究院ラボラトリーアニマルリソースセンター Laboratory Animal Resource Center, Korea Research Institute of Bioscience and Biotechnology(KRIBB)	大韓民国	学術
	生命資源研究・支援センター	カリフォルニア大学デービス校 マウスバイオロジープログラム Mouse Biology Program, University of California, Davis	アメリカ合衆国	学術/学生
	医学教育部	ムヒンビリ医科学大学医学部 School of Medicine, Muhimbili University of Health and Allied Sciences	タンザニア連合共和国	学術

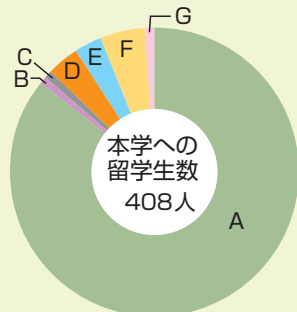
大学間交流協定: 69件    部局間交流協定: 82件    計151件    30カ国 (平成25年7月1日現在)

## 国際交流に関するデータ

### 外国人留学生数

(平成25年5月現在)

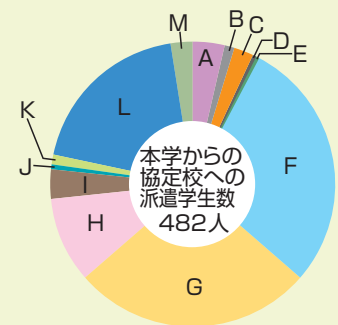
A: アジア	350人
B: 北アメリカ	3人
C: 中南アメリカ	3人
D: ヨーロッパ	15人
E: 中近東	13人
F: アフリカ	20人
G: オセアニア	4人



### 本学からの協定校への派遣学生総数

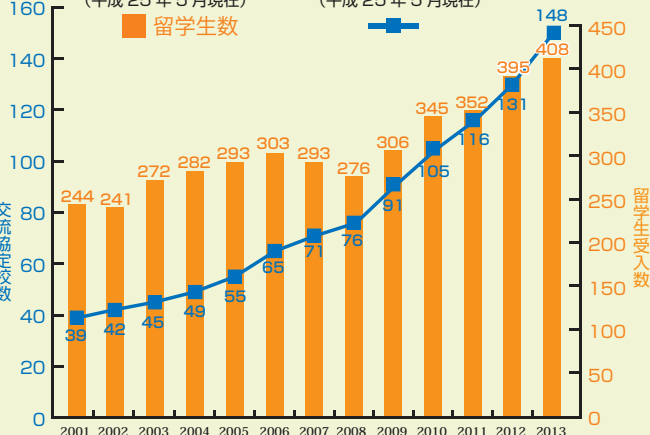
(昭和52年度～平成24年度)

A: 中国	18人
B: 韓国	6人
C: 台湾	10人
D: ベトナム	1人
E: インドネシア	1人
F: アメリカ合衆国	139人
G: イギリス	132人
H: ドイツ	47人
I: フランス	16人
J: チェコ	2人
K: トルコ	6人
L: オーストラリア	92人
M: ニュージーランド	12人



### 留学生受入数の推移

(平成25年5月現在)



### 交流協定校数

(平成25年5月現在)

### 本学教員の研究に伴う海外渡航数

(平成24年度)

A: アジア	514人
B: 北アメリカ	388人
C: 中南アメリカ	7人
D: ヨーロッパ	366人
E: 中近東	17人
F: アフリカ	12人
G: オセアニア	44人

